

Linus Torvalds

リーナス・トーバルズ

impress TV番組
「INTERNET Magazine インタビュー」で、このインタビューを放映!  impress.tv
 **ONAIR** 7/17(火) 23:30 ~ **ONDEMAND** 放送後随時

 interview Linuxの生みの親



オープンソースの名のもとにコミュニティが形成され、Linuxはインターネットの普及とともに広がっていった。非常に急速であったこの動きは、開発者であるリーナス・トーバルズ氏の目には誰よりも劇的に映ただろう。先ごろ出版された自著のタイトルは『それがぼくには楽しかったから』（原題はJUST FOR FUN）。成功を手中に収めてもお、Linuxについて「楽しみ」と言いのけてしまうリーナス氏とははたしてどんな人物なのだろうか。共著者であるレッドリング誌のデイビッド・ダイヤモンド氏とともに話を伺った。

聞き手：川崎和哉
Photo: Nakamura Tohru

☞：この数年で、Linuxやオープンソースをめぐる状況はずいぶん大きく変わったように思います。

リーナス：そうだね、僕もずいぶん変わったと思う。2年ぐらい前に、「フリーソフト」という言い方から「オープンソース」という言い方に変えたのがよかったんじゃないかな。「フリーソフト」だといろいろと誤解を招くでしょう。英語のフリーの意味にはいくつも意味があるから。「オープンソース」という名前にしてわかりやすくなったよね。

4、5年前までだと、どこに行っても、まずオープンソースの考え方を説明するのが大変だった。でもいまはもう、マスコミでもたくさん取り上げられてるし、人の目に触れる機会も増えているから、理解は広がっていると思う。それはすごくうれしいことだね。

☞：現在のLinuxの開発者のコミュニティの状況については満足していますか。

リーナス：すごくいいことだと思っているのは、単に全体の開発者の人数が増えていることよりも、新しい分野において新しい開発者が参加してくれるようになってること。昔はオープンソースの開発者というのは、ハードコアな技術系の人たちに限られてたよね。でもこの2年間ほどですごく広がりが出てきた。新しい分野自体が増えてきて、グラフィックスとかユーザーインターフェイスとか、そういうところがかかわってくれる人たちが増えてきた。

☞：先日、Linux向けなどのGUIのファイルマネージャーを開発していたEazelが倒産し

ましたよね。Linuxはサーバーや組み込み分野では前途有望だけど、デスクトップ分野ではダメではないかという人もいるのですが、どうお考えです？

リーナス：そもそもLinuxは僕自身のデスクトップのために作ったものだったし、実際それから10年間、僕はデスクトップでLinuxを使ってきているよ。たまたま商業的にはサーバーマーケットのほうが参入しやすかっただけじゃないかな。UNIXサーバーの市場が確立されていたから、そこに浸透しやすかったんだ。組み込みの分野にしても同様だと思う。デスクトップ分野はというと、マイクロソフトが95パーセントもシェアを取っているから、それほど入り込みやすい市場じゃないんだよね。あと、デスクトップはたくさんのいろんなプログラムが必要な分野だから、勝手が違うってのもあるかな。

でもね、ここ数年、いやここ数か月でもLinuxデスクトップの状況はすごく良くなってきているんだよ。いままでできなかったことができるようになってる。時間はかかると思うけど、いい作り方をするとし、その状況に僕は満足してる。

☞：ケータイやPDAなんかのモバイル分野へのLinuxの進出についてはどんな展望を持っていますか。

リーナス：Linuxはどんどん小さいデバイスの中に入って行ってるよ。実際すでにPDAには入ってる。ケータイでもLinuxを具体的に採用しようという動きを示してる会社がある。1年以内に、少なくともプロトタイプレベルでなら、ケータイでLinuxが動い

Linuxというプロジェクトと自分とが一緒に成長していつてるなと思う。



「それがぼくには楽しかったから」
リーナス・トーバルズ + デイビッド・ダイヤモンド著
小学館プロダクション刊 / 定価1,800円 + 税 / ISBN4-7968-8001-1

Linuxの生みの親であるリーナス・トーバルズがLinuxの誕生から現在までの経緯、生活、哲学などを語っている。

デイビッド・ダイヤモンド

1952年、米国生まれ。『レッドヘリングマガジン』誌の編集役員。『ビジネスウィーク』誌のライター、『ワイアードマガジン』誌の外部ライターとしても活躍。またニューヨークタイムズ紙にも定期的に記事を執筆している。現在までに4冊の自著を出版している。



てるってことは十分考えられるよ。

ケータイに関しては技術面うんぬんじゃなくて、果たしてケータイにLinuxみたいなOSが必要かどうかという議論になると思う。現行のケータイにはそれは必要ないでしょう。ただこれから、PDAとケータイの機能が一体化していくとそういうニーズが出てくるのかもしれないね。そうなればLinuxも選択肢に入る。Linuxの利点は、ニーズに合わせていくらでも改良できるということだからね。

☞: Linux以外で興味を持たれているソフトウェアプロジェクトはありますか。

リーナス: もちろん、トランスメタ【*1】ではいくつかのプロジェクトにかかわってるんだけど、これは具体的には教えられないん

だ。それから、開発者として参加しているわけじゃないけど、gcc【*2】は興味を持って見ているよ。あと、Xウィンドウシステム【*3】のユーザーインターフェイス……。

というか、Linuxと仕事で手いっぱいだよ。それでもう十分(笑)

☞: でも、Linuxを書き始めて10年でしょう? いくら「JUST FOR FUN」だと言っても飽きないんですか。

リーナス: Linuxはこの10年間、あまりにも大きな変化を遂げているからいまだに新鮮でおもしろいんだよね。

当初僕はプログラマーとしてかかわったわけだけど、10年間そのままだったら飽きてただろうと思う。でも最近はマネジメントでかかわっていて、おもしろ仕事はコミ

ュニケーション。そういう変化もあるしね。

あと、Linux以外のこともトランスメタでやらせてもらってる。そのためにわざわざLinux関連じゃない会社を選んだんだ。おかげ様でまだまだ飽きてないよ。

☞: リーナスさんはコミュニケーションが苦手だったんじゃないありませんでした? それと、最近、純粋に自分自身でプログラミングを楽しむってことはしています?

リーナス: 当初は僕がマネージメントやコミュニケーションを好きになれるとは思わなかったよ。でも、Linuxの開発でのマネージメントっていうのは、部下を従えて指示を出して……といったこととは違うんだよね。トランスメタでは僕もそういうことをやってみたけど、ものすごく苦手で半年で

リーナス・トーバルズ

1969年、フィンランド生まれ。ヘルシンキ大学在学中にコンピュータOS、Linuxを開発する。現在、米国カリフォルニア州在住。トランスメタ社で、省電力CPU、クーラーなどの開発にかかわり、現在も同社でさまざまな開発プロジェクトの中心メンバーとして活躍している。一方、インターネットを通じて日々改良が行われているLinuxも、自らその監修にあたり、ユーザーからの質問に答えるなど、開発者として積極的なかかわりを持っている。



L i n u s T o r v a l d s

Linux

やめちゃった(笑)。Linuxでのマネジメントというのは、すごくテクニカルなものであって、人のマネジメントじゃない。テクニカルな問題のマネジメントはすごくおもしろいと思うな。

で、プログラミングはいまも大好きだよ。ただ、19、20歳のころは1つの些細な問題に何週間もかけて集中することができたけど、さすがにいまはそれは無理かな。自然と歳を重ねて、家族もできたし、子供が何人もいれば、そういう集中の仕方はいよいよね。いまはそういう部分を若い人たちがやってくれているわけ。いい意味でLinuxというプロジェクトと自分とが一緒に成長していったと思う。

☞:『それがぼくには楽しかったから』の共著者であるデイビッド・ダイヤモンドさんは、そもそもなぜリーナスさんに興味を持ったんです?

デイビッド:最初は興味があったわけじゃ全然なくて、ある雑誌に依頼されて取材に行ったんだよね。そのときは、テクニカルなことを勉強していかなきゃいけないな、めんどくさいなと思ってたんだけど、実際に会ってみたらすごくおもしろい人物だった。

僕はテクニカルな知識をたくさん持っているわけじゃないんだけど、それが逆によかったと思ってる。技術系のジャーナリストだったら、リーナスがいかに大変な人物かという先入観を持ってしまって、そういう見方しかできなかっただろうね。僕の場合は、なんか足が遅い奴だなあぐらいにしか思ってなかったからね(笑)。

☞:取材対象を外に連れ出す手法は非常におもしろいと思いました。

デイビッド:このやり方は『ワイアードマガジン』誌でも何回が使ったんだけど、その人が普段いる環境から外に出てもらって、管理があまりできない状態にして話を聞き出す方法なんだよね。有名な人は自分のイメージをコントロールして守りたがるものだけど、それができないようにすると、イメージが崩れて、本当はどういう人物なのか



というのが現れてくる。その人がコントロールできない環境のなかで、いろんな思いもよらないハプニングが起こったときにどうという反応を見せるのか。そういうことが知りたいんだ。

☞:最後に、リーナスさんとインターネットとのかわりについて教えて下さい。

リーナス:いちばん最初は、古いIVAXシステムのeメールかな。今のeメールとは全然違って、僕はいいとは思わなかった。大学に入ってUNIXを使い始めて、やっとそこでeメールとニュースグループにハマったという感じかな。とくにニュースグループは、非常にテクニカルで専門的なものがたくさんあったから、それを読んで興味のあるものがあれば議論に参加したりしてたね。ニュースグループを読むために自分ちの電話を占領してすごい迷惑かけたりして

(笑)。で、いまもあんまり変わってなくて、ウェブサイトはほとんど興味がなくて見ない。eメールとニュースグループ、あとはサーチエンジンを使うくらい。それが僕のインターネットです(笑)。

☞:ありがとうございました。 ●●

川崎和哉(かわさきかずや)

編集者/ライター。音楽雑誌出身だが、94年以降、インターネット/デジタルカルチャー方面にテーマをシフト。オープンソースには編集者の好奇心で接近。非テクニカルなアプローチでオープンソース現象をまとめた『オープンソース・ワールド』(翔泳社)を書いた。元HotWired Japan副編集長。現在、音楽ファンのコミュニティサイトOOPS! Music Community代表。
oops-music.com

【*1】Linuxの勤務するIT企業。省電力チップ「クレーン」で有名。

【*2】GNU C コンパイラー。UNIX系OSにおけるC言語のコンパイラーの事実標準。オープンソースソフト。

【*3】LinuxをはじめとするUNIX系OSで標準的に使われるウィンドウシステム。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp